

何をめざすのですか「安心安全まちづくり条例」

4日、杉本敏宏議員団長が総括質疑

八人が登壇した総括質疑で五人の議員がそれぞれの立場で、「みんなで防犯安全安心まちづくり条例」を取り上げました。十七年度決算とともに今議会を中心議題の一つです。

杉本議員団長は、「まちづくり条例といいながらまちづくりの視点がない」と切り出し、全国で起きている議論も紹介しながら、「自らの安全は自らまもる。地域の安全は地域自らまもる」というのは、警察力の低下を市民に肩代わりさせるものではないか」とただしました。

また次のように質問しました。

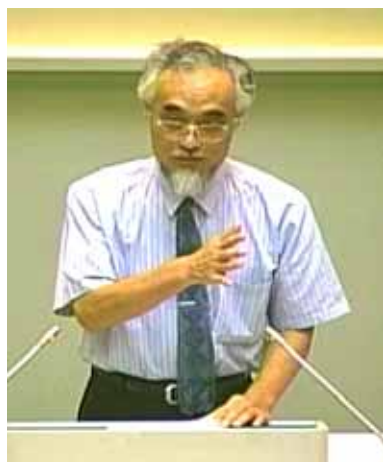
他の自治体の「推進計画」や「指針」では、ピッキング対策ということや「玄関はドア」とされたりしています。町家の引き戸はどうしますか。学校には「塀をめぐらせ、門をつくりカギをかけ」となっていますが、上越市の学校でめざしている「開かれた学校」と矛盾しませんか。そうした優れた施策を閉ざすことになりませんか。

町家も農村も工場も「土地所有者」ということで、同じ「責務」が課されます。墓地では照明が必要でも、個々の町家では不要で

新市建設計画と決算の整合性は

杉本議員が取り上げたもう一つの問題は、十七年度の上越市財政が、合併時の公約である新市建設計画と整合性が取れているかという問題です。

新市建設計画の財政計画では、十年間で二〇〇億円歳入不足になるということで、毎年二十億円つつ圧縮して九五二億円の規模にした。それを一〇〇八億円もの予算を組んだら、計画が根底から崩れる。歳出決算は九八〇億円になっ



たが、計画との整合性をどう計るうとしたのか。杉本議員はさらに、次のように質問しました。

この条例でも問題になっているのは、「防犯カメラ」と呼ばれる「監視カメラ」です。「常に監視されている」という不安を市民に与えることになりましたか」と問題点をめぐり出し、次のように指摘しました。

「監視カメラ」を設置すると犯罪が減るという例として東京の歌舞伎町が取り上げられます。設置したところでは確かに減ったが、その周辺で増加しているといわれています。

「監視カメラ」の前で事件が起きても、誰も助けに来てくれません。犯人捜査の役には立つが防犯には役立たないのです。「カメラを警察と直結したら」という意見もありますが、何百台ものカメラを24時間365日見れるものではありません。

最後に杉本議員は、「戦国の防備都市である高田のまちは、犯人が隠れやすい構造です。これを見つければ、防犯に役立つ構造です。これをみつけ易い構造に改造することなどできません」と疑問を提示し、質問を締めくくりました。

入札差金など経費節約努力で、二十億円の余剰が生じた。節約努力は奨励する必要がある。節約した部門に優先的に活用させる制度をつくる必要もある。余ったからと翌年に回すだけでなく、事業を前倒して執行するなど市民生活向上に使うべきだ。

市長は、「事務事業の見直し、事務の効率化、経費の削減努力で財政健全化をめざしたい」と、答弁。

全国ではじめて公募公選制の地域協議会を導入したことで注目されている上越市の地域自治組織を、現地で直接学ぼうと、九月二・三日、大潟区でセミナーが開かれました。にいがた自治体研究所などが主催したもので、約一五〇人の市民、議員・行政関係者、研究者などが参加しました。

セミナーでは、市の野澤朗企画・地域振興部長が、上越市の制度を詳しく説明し、今後の課題も明らかにし



上越市の「地域自治組織」現地に学ぶセミナー開く

大潟区協議会の後藤紀一副会長が大潟区での取り組みを話し、杉本敏宏上越市議も議会と地域協議会の関わりを語りました。

また、名立区、大潟区、柿崎区の委員との交流は、「生の声が聞けて良かった」と評判でした。

二人の研究者の講演は、「上越市の制度がなぜ注目されているのか」、「どう発表させていくべきなのか」、など、全国的な立場からの解明で、上越市の取り組みにエールを送るものでした。



日本共産党上越市議員団ニューズ

62	2006年9月10日	
連絡先	杉本敏宏	524-3787 (東本町5)
	樋口良子	544-6802 (中門前3)
	橋爪法一	548-3628 (吉川区代石)
事務局長	上野公悦	530-2203 (頸城区中柳町)